

オーストラリアの企業ボランティア 老朽化が激しいスラムの家2軒を建て替え支援



4月23日、はるばるオーストラリアから国際的な製薬企業「ノバルティス」の支社で働く社員23名がクロントイスラムを訪れ、老朽化で雨漏りなどが激しい2軒の家を建て直す活動をしました。

今回の支援を企画したのは2004年にインドネシアのスマトラ沖で発生し、タイも襲った大津ナミの際、オーストラリアから救援に駆けつけた有志々が設立したボランティア団体「Hands Group(旧称 Hands Across The Water)」(海を越えて手をつなごう)が呼びかけて実現した国際貢献活動です。国境を越えて、貧困で苦しむ人々を助けようとの呼びかけに「ノバルティス」社が応じ、2軒分の建て替え費用約620,000バーツ(約21万円)を募金で集めてタイにやって来ました。

クロントイスラムでは現在約12万人が暮らしていますが、大半はバラック同様のひと間かふた間だけの粗末な住まいです。



今回はその中で特に屋根や薄い仕切りの板壁のいたみが激しい2軒を解体し建て替えることになりました。社員たちは気温35度の炎天下で一日かけて取り壊し作業を行い、新しい家の建築は地元の大工さんたちに託しました。



一軒目の家は夫婦、両親、子どもたちの計8人暮らしですが、両親は高齢で夫は身体が不自由なため、53歳の妻がバナナの葉で装飾品を作って売りながらひと月3,000バーツ（約10,000円）ほどを稼いで何とか生き抜いています。もう一軒の家でも5歳の時からクロントイスラムに住み今年52歳になる女性が病弱の夫と二人の子どもたちを花輪を売りながら



支えています。花輪はよく売れて一日に200バーツ（約700円）にしかならず、厳しい毎日の暮らしに追われて来たので、とても家の修理は出来ず、雨がどんどん降り込んでくる部屋で暮らして来ました。

「これからやっと安心してやすめます」

ふた家族とも完成を楽しみに待っているところです。